

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所Ra:SeeSar			
○保護者評価実施期間	令和7年 8月 10日		～	令和7年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	令和7年 8月 10日		～	令和7年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	主として重症心身障害児を受け入れる事業所として、様々なニーズにお応えできるよう手厚い職員配置を行っている。	①安心した医療的ケアが受けられるよう常勤看護職員を5名雇用している。(うち一名は児発管) ②介護福祉士の常勤雇用により、より安全な移乗介助や入浴支援を可能とする環境を整えている。 ③リハビリニーズに対応すべく、機能訓練担当職員を中心にリハビリメニューを標準化し日々実践している。	①地域医療・福祉との連携。医ケア児センターや保健所との協働を活性化。 ②安全かつ職員の負担(腰痛等)にならないような介助方法について、研修会を開催。また、リフターの導入などを検討していく。
2	事業所運営並び活動内容等について、保護者様からの信頼を十分にいただいている。	保護者様との連絡手段として、口頭や電話の他に公式LINEを活用している。日々の連絡帳も公式LINEを活用し、お子さまがいきいきと活動している様子を文章だけでなく画像や映像を添付して送信することにより、活動の様子が可視化できることで共通理解と信頼関係の構築に繋がっている。	お子さまがより様々な体験活動ができ、保護者様と一緒にできたことを喜び合えるよう、療育活動内容の更なる充実を図っていく。 家族支援の充実。ご家族間交流の場はこれまでも定期的に行っていたが、父親の会を新たに立上げ父親同士の交流と相談し合える環境を整えていく。
3	情報発信力。	①活動の様子についてインスタグラムで定期的に配信している。配信を通して重症心身障害児のことを知ってもらうことで理解を広めていきたいと考えている。	①ホームページを刷新し有効活用を検討。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他施設交流や障害のない子どもとの関わりが少ない。	①他施設との交流機会は何度かあるもののいずれも単発開催に終わっている。 ②新型コロナウイルスやインフルエンザ感染症等の収束が見られず、主に重症心身障害児を受け入れる事業所の特性上、慎重な対応が求められている。	①益田東高校のボランティア部とアンサンブルいわみの音楽隊が月1～2回で定期的に来所し単発ではなく継続した関わりを保っている。 ②本児の体調や医療的ケアのスケジュールを大切に、感染症の状況を確認したうえで外出や交流に繋げていく。
2	地域に対し重症心身障害児、医療的ケア児に関する認知を拡げていくためにも保健所等々の関係機関と協働する必要がある。	地域交流を図る中で課題として見えた重症児への理解力不足は日常生活の中で関りを持つ機会が非常に少なく、場所等も限定的であると推測。	保護者も「地域の皆さんに我が子のことを正しく理解して欲しい」という気持ちも非常に強い。将来を見据え、ご家族だけでなく地域や福祉事業に関わらず様々な方々との交流を行いながら重症児と関わる機会を設定し、自分が暮らす地域にも重症児がいること、懸命に生きていること、重症児には類稀なチカラが秘められていることを伝えていく。
3	事業所が企画運営する研修会等の活動における準備不足。	①研修会等の開催に向けた準備不足。 ②職員の経験不足(特定の職員への負担過重)。	①早期からの全体計画の立案(活動内容・開催日時・講師との調整・収容できる参加者数・職員の役割分担・費用・地域や他事業所等への案内周知方法等)を進めていく。 ②リーダー役となる職員の育成。